

## 第60回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示 作家・毛利悠子、キュレーター・イ・スッキョンに決定

国際交流基金（JF）は、2024年4月から11月にかけて、イタリア・ヴェネチアにおいて開催される「第60回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」の日本館展示を主催します。このたび、国際展事業委員会の選考会議を経て、日本館出品作家に毛利悠子、作家の指名を受けてキュレーターにイ・スッキョンが決定しましたので、お知らせいたします。貴媒体でのご紹介やご取材を何卒よろしくお願い申し上げます。

### 記

#### ■第60回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館

会期：2024年4月20日（土）～11月24日（日）

会場：日本館（ビエンナーレ会場 ジャルディーニ地区内）

出品作家：毛利悠子

キュレーター：イ・スッキョン（Sook-Kyung Lee、テートモダン シニアキュレーター、  
第14回光州ビエンナーレ アーティスティック・ディレクター）

主催／コミッショナー：国際交流基金

日本館公式ウェブサイト：<https://venezia-biennale-japan.jp/j/>

#### ■第60回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 全体概要

会期：2024年4月20日（土）～11月24日（日）

会場：ジャルディーニ地区（Giardini di Castello）、アルセナーレ地区（Arsenale）など

総合ディレクター：アドリアーノ・ペドロサ（サンパウロ美術館 アーティスティック・ディレクター）

総合テーマ：未定

#### ■毛利悠子 略歴



写真：久家靖秀

1980年生まれ。美術家。コンポジション（構築）へのアプローチではなく、環境などの諸条件によって変化してゆく「事象」にフォーカスするインスタレーションや彫刻を制作。「第14回光州ビエンナーレ」（2023年）、「第23回シドニー・ビエンナーレ」（2022年）、「アジア・アート・ビエンナーレ2021」（台中、2021年）、「第34回サンパウロ・ビエンナーレ」（2021年）、「グラスゴー・インターナショナル2021」（2021年）、「第9回アジア・パシフィック・トライエンナル」（ブリスベン、2018年）、「第14回リヨン・ビエンナーレ」（2017年）など国内外の展覧会に参加。2015年に日産アートアワード グランプリ、2017年に第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

#### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)



毛利悠子《I/O》2011-2023年

「第14回光州ビエンナーレ」展示風景 写真=久家靖秀

Courtesy the artist, Project Fulfill Art Space, Taipei,  
mother's tankstation limited, Dublin/London and Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo

## ■毛利悠子コメント

いつかわたしたちはみな蒸発するだろう ——オノ・ヨーコ

2022年、ナショナル・ギャラリーに展示されているヴァン・ゴッホ《ひまわり》にトマト缶をかけた環境保護団体ジャスト・ストップ・オイルによる抗議行動は記憶に新しい。美術誌『frieze』編集長による実行者2名への取材では、「洪水で被災した3300万人のパキスタン人」への無関心と、たった2名の西欧世界からの抗議への注目という非対称性が行動理由に挙げられている。活動家が主張したアートへの攻撃は、先進国ではまだ認識さえもされていない、地球上の多くの生態に影響を及ぼす気象危機の関心を大きく集めることになった。2人はゴッホにトマト缶をかけた後、こう主張した——「より価値があるのはアートか、それとも命か？」

危機は逆説的に、人々に最大の創造性を与える——これは東京駅構内で起こる水漏れに日用品を用いた「(不)器用仕事」で立ち向かう駅員たちのフィールドワーク「モレモレ東京」を着想するに至った根幹であり、また、世界的な厄災となったコロナ禍でますます確信した私の信念だ。2019年に「50年に1度の」洪水に見舞われたヴェネチアにて、アートの近傍で起こる世界的問題を別掲し、創造的なヴィジョンを提示したいと思う。

毛利悠子

## この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

### ■イ・スッキョンによるメッセージ

私は以前から、毛利悠子氏の表現活動を高く評価してきた。彼女の日常にありふれた素材の選び方や空間の構成はとても興味深い。音や音楽は、主役にならず、過剰に際立つこともなく、与えられた空間と一体化するか、或いは空間の一部になるように感じる。第14回光州ビエンナーレに出展したのは、「soft and weak like water（天下に水より柔弱なるは莫し）」というテーマにまさにふさわしい、静かな力強さを感じさせる意義深い作品であった。彼女の作品を鑑賞していると、対象だけでなくそれを取り巻く環境に目が向き、意図する音だけでなく雰囲気にも耳を澄まし、無音も意識するようになる。2024年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館にて、示唆に富む作品を生み出してくれると確信している。

### ■イ・スッキョン略歴



Photo: Roger Sinek

イ・スッキョン博士は、英国ロンドンのテート・モダン インターナショナル・アート部門シニアキュレーター。これまでに、「Nam June Paik（ナム・ジュン・パイクの回顧展）」（2019-20年）、「A Year in Art: Australia 1992（オーストラリアのアートの1年、1992年）」（2022-23年）、「Richard Bell（リチャード・ベル）」（2023年）などの主要展覧会を手がける。第14回光州ビエンナーレ（2023年4月7日～7月9日）アーティストック・ディレクター、2015年第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展韓国館のコミッショナー及びキュレーターを務めた。このたび、英国マンチェスター大学ウィットワース美術館のディレクターに任命され、2023年8月に着任予定。

### 【ヴェネチア・ビエンナーレ（La Biennale di Venezia）について】

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。

1895年に最初の美術展が開かれて以来、130年近い歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、なかでも美術展は、現代の美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。

日本は1952年に初めて公式参加を果たし、1958年に日本館の完成を経て、今日に至るまで毎回参加を継続しています。1976年からはJFが日本館展示を主催し、現在に至ります。

### 【コミッショナーについて】

第60回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示の主催者／コミッショナーである「独立行政法人国際交流基金（JF）」は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月1日に独立行政法人となりました。海外に25か国・26か所の拠点を持ち、「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」をミッションに掲げ、世界の人々と日本人の間でお互いの理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。2022年には、日本のヴェネチア・ビエンナーレ公式参加70年を記念して、『ヴェネチア・ビエンナーレと日本』（平凡社）を出版しました。

---

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## ■ 広報用画像

本プレスリリースに掲載の画像は、全て広報利用が可能です。

画像を希望される方は、広報担当の熊倉・原田（[press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)）までご連絡ください。

### 【ご使用時の注意点とお願い】

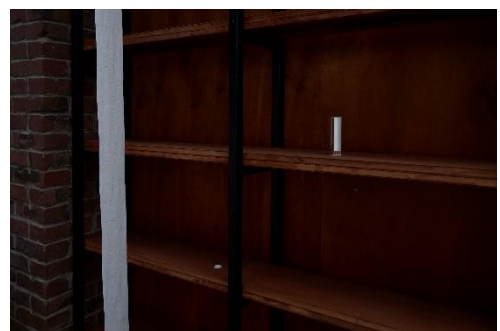
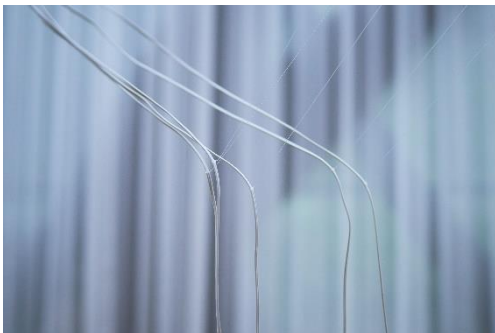
- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報及び所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・事実関係確認のため、出版前に記事校正を広報担当者までお送りください。
- ・掲載誌または掲載記事を広報担当者までお送りください。

### 1. 毛利悠子 《I/O》 2011-2023 年

「第 14 回光州ビエンナーレ」展示風景 写真 = 久家靖秀

Courtesy the artist, Project Fulfill Art Space, Taipei, mother's tankstation limited, Dublin/London and Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo

Commissioned by the Gwangju Biennale



### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## 2. 毛利悠子 《モレモレ東京》 2011-2021

Courtesy the artist, Project Fulfill Art Space, Taipei and mother's tankstation limited, Dublin/London



## 3. 毛利悠子 《Decomposition》 2022年 写真：久家靖秀

Courtesy the artist, Project Fulfill Art Space, Taipei and mother's tankstation limited, Dublin/London and Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo



この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)